

橘病院地域連携便り

第3号

編集
橘病院地域連携
委員会



日本医療機能評価機構

(財)日本医療機能評価機構認定病院
医療法人 社団 橘会

橘病院

整形外科専門病院

〒885-0071

宮崎県都城市中町15街区24号

TEL 0986-23-7236

FAX 0986-25-5975

<http://www.tachibana-hospital.jp>

EX-ℓ info@tachibana-hospital.jp

ご挨拶

理事長 矢野 良英



新年明けましておめでとうございます。

昨年度は6月より増築工事を始めまして、患者さん方に何かとご迷惑をおかけしていますことをお詫び申し上げます。

昨年8月には、増築工事に伴い既存の第2駐車場の使用ができなくなりましたので、病院の道路向かい側ではありますが、新たに第3駐車場(35台)及び天神パーキング(37台)の整備をしました。是非御利用ください。第1駐車場(25台)と第2駐車場(12台)も合わせて、総計109台駐車可能となっています。

昨年11月には、MRIを新しい上位機種に入れ替えました。画像が微細まで鮮明となり診断効率が上がりました。又、1人の撮影に要する時間が短縮しましたので、一日に検査可能な人数が増えて、予約の検査待ちの日数が短くなりました。今後は、緊急性の高い患者さんは、なるべく受診当日にMRIの検査が出来る体制にしていきます。

今年の3月末には増築工事がほぼ完成の予定です。1階は、待合コーナー、事務室、診察室、処置室が拡充します。受付カウンターも広くなりますので、受付でのサービス向上、ひいては患者さんの待ち時間の短縮に少

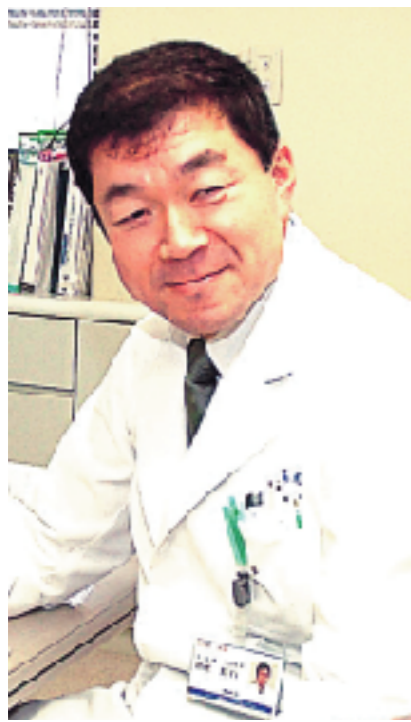
しでも貢献できればいいかと考えています。2～3階には個室の病室ができます。今回10床増床することになり、急性期病棟50床、回復期リハビリ病棟42床となります。今までは、入院が予約待ちで、救急患者さんの即日入院が困難でしたが、少し空きベッドを残すようにしたいとおもいます。4階はリハビリ訓練室が拡がり600平方メートル以上のゆとりある広さになります。各種リハビリ訓練器具も取り入れていきます。昨年度は、リハビリ訓練室のスタッフが5人増えて理学療法士。作業療法士合わせて10人体制になりました。入院患者さんのリハビリ訓練は、日・祭日もリハビリを1日も休むことなく訓練を続けることを目標とし、且つ毎日のリハビリの充実を図ることで、患者さんの早期回復・社会復帰を目指していきます。それには更なるスタッフの増員が必要です。5階は医局となります。医師の交流の場、生涯学習の場及び休息・リフレッシュの場になるようにイメージして作りました。6階はオール電化の厨房とレストランになっています。オール電化により、厨房内の室内の温度のコントロールがしやすくなり、作業環境の改善が見込まれます。

今後維持期のリハビリを医療ですることは困難となり、介護保険の対象になります。今回、通所リハビリ施設を1階の改装部分に開設予定ですので、介護認定をお持ちの患者さん方にも喜んでもらえる病院になるものと考えています。

Medical Professional の達人 医 超人 スーパーDr ドクター

【広告】

■取材協力 医療法人 社団 橋会 橋病院
■企画・制作 読売鹿児島広告社



(かしわぎ・てるゆき)

(略歴)

1961年生まれ。昭和63年3月宮崎医科大学卒業、同大学医学部付属病院医員(研修医)(整形外科)として勤務。以後、恩資財団済生会日向病院医師(整形外科)、宮崎医科大学医学部付属病院医員(整形外科)、医療法人康仁会谷村病院医師(整形外科)、熊本市立熊本市市民病院医師(麻酔科)、宮崎県立日南病院医師(整形外科)を経て、平成6年宮崎医科大学医学部付属病院助手(整形外科)に就任。11年、アメリカ・ペンシルバニア州とバージニア州に留学。12年3月橋病院(整形外科)勤務。18年11月橋病院院長に就任。現在に至る。12年にはアメリカ・ネブラスカ州立大学メディカルセンターにてMISを研修。

(免許・資格)

- 昭和63年5月第82回医師国家試験合格・医師免許取得
- 平成7年日本整形外科学会認定医取得・日本リハビリテーション学会認定医取得

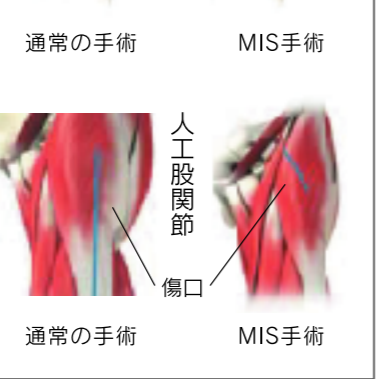
変形性股関節症や変形性膝関節症に對して、壊れた関節を人工関節に置き換える「人工関節置換術」。耐用年数には限度がある人工関節だが、材質、デザインとともに手術技術の進歩により、耐久性も向上しつつある半面、手術で筋肉や靭帯などを損傷し、早期回復が長引くなどの問題があった。しかし、最近では患者の負担を軽減したMIS手術(最小侵襲)が脚光を浴びている。このMIS手術に取り組んでいる医療法人社団橋会橋病院院長の柏木輝行氏に、人工関節置換術からMIS手術まで話を聞いた。

人工関節置換術

医療法人 社団 橋会 橋病院

●人工関節は、当初テフロンから始まり、ポリエチレン、セラミックの材質が使われてきましたが、摩擦により生じた摩耗粉が骨を溶解させることで、人工関節のゆるみを招いているといわれています。そこで、最近では摩耗粉を極力少なくした骨との親和性の高い材質が登場し、またデザインも改良され、あるいは手術技術の進歩により耐久性は高くなってきています。最近では高分子ポリエチレンやチタン合金、さらにはハイドロキシアパタイトをコーティングして骨との親和性・融合性を高めた材質が登場してきています。

一方、人工関節のゆるみは材質だけでなく、骨粗鬆症が原因により生じることもあります。しかし、最近では骨粗鬆症の治療薬も進歩し、さらに筋力強化など運動療法のプログラムも充実してきており、これらを組み合わせることで人工関節の耐久性も向上しています。



●変形性股関節症や変形性膝関節症に對する治療は、20年ぐらい前までは「骨切り術」が主流を占めていました。しかし、現在では患者さんの壊れた関節を人工関節に置き換える「人工関節置換術」が、手術手技や、人工関節の材質の進歩などで、その機能が向上しており注目されています。

院長 柏木 輝行 氏に聞く

●人工関節は、当初テフロンから始まり、ポリエチレン、セラミックの材質が使われてきましたが、摩擦により生じた摩耗粉が骨を溶解させることで、人工関節のゆるみを招いているといわれています。そこで、最近では摩耗粉を極力少なくした骨との親和性の高い材質が登場し、またデザインも改良され、あるいは手術技術の進歩により耐久性は高くなってきています。最近では高分子ポリエチレンやチタン合金、さらにはハイドロキシアパタイトをコーティングして骨との親和性・融合性を高めた材質が登場してきています。

●通常の人工関節置換術では股関節にしる膝関節にしる15センチほどでも皮膚を切開していました。人工関節置換術に限らず、どのような手術でも患者さんにとって侵襲が小さいことは、その後の早期回復につながるものであり、私は人工関節置換術でも4年ほど前から

●MIS手術の登場で、従来よりも傷を小さくできるようになりましたが、MIS手術はさらにその上を目指せるレベルにあると思います。つまり、もっと小さな侵襲でできないかということですが、そのためにはそのレベルをどこまで高めていくかということが課題になると思います。

●変形性股関節症や変形性膝関節症に對する治療は、20年ぐらい前までは「骨切り術」が主流を占めていました。しかし、現在では患者さんの壊れた関節を人工関節に置き換える「人工関節置換術」が、手術手技や、人工関節の材質の進歩などで、その機能が向上しており注目されています。

末期の関節症であれば「人工関節置換術」も

●変形性股関節症や変形性膝関節症に對して、壊れた関節を人工関節に置き換える「人工関節置換術」。耐用年数には限度がある人工関節だが、材質、デザインとともに手術技術の進歩により、耐久性も向上しつつある半面、手術で筋肉や靭帯などを損傷し、早期回復が長引くなどの問題があった。しかし、最近では患者の負担を軽減したMIS手術(最小侵襲)が脚光を浴びている。このMIS手術に取り組んでいる医療法人社団橋会橋病院院長の柏木輝行氏に、人工関節置換術からMIS手術まで話を聞いた。

●通常の人工関節置換術では股関節にしる膝関節にしる15センチほどでも皮膚を切開していました。人工関節置換術に限らず、どのような手術でも患者さんにとって侵襲が小さいことは、その後の早期回復につながるものであり、私は人工関節置換術でも4年ほど前から

●MIS手術の登場で、従来よりも傷を小さくできるようになりましたが、MIS手術はさらにその上を目指せるレベルにあると思います。つまり、もっと小さな侵襲でできないかということですが、そのためにはそのレベルをどこまで高めていくかということが課題になると思います。

外来担当一覧表

平成20年1月1日 現在

整形外科	午前	月	火	水	木	金	土
		柏木	矢野	矢野	矢野	吉田	柏木
		吉田	柏木	吉田	柏木	宮大整形	吉田
	午後				吉田		宮大整形
		矢野	吉田	宮大整形	矢野	矢野	宮大整形
			宮大整形		吉田	吉田	

内科	月	火	水	木	金	土
	新村	宮大内科	新村		宮大内科	

リハビリ テーション科	月	火	水	木	金	土	
	医師	狩野(季)					
	理学療法士	塩崎	小八重	小川	飯島	立野	小島 園田 山之内
	作業療法士	中武 廣田					

診療時間

午前：9時～13時迄

午後：14時～18時迄

受付時間

午前：9時～11時30分迄

午後：11時30分～17時迄

(但し、急患・紹介患者はこの限りではありません)

地域連携室では主に「地域の住民・医療機関等との連携」と「医療相談」に取り組んでいます。

●「地域の住民・医療機関との連携」

かかりつけ医紹介の患者さんの診察後の連絡、入退院・手術のご連絡、退院後のサマリー送付などを行います。

地域行事等へ積極的に呼びかけ参加しています。(毎年中町祇園祭りに参加しています。)

また、患者さまと地域に点在するいろいろなサービス機関との連携を推進し、広報活動を行っています。

●「医療相談」

担当者が入院中や退院後のこと、医療費のこと、転院先のこと、介護保険等の福祉サービス利用のこと等、患者様からのご相談を受け、活動しています。

- 当院に対する各種お問い合わせや苦情等も承ります。どうぞお気軽にお寄せ下さい。



編集
後記

新年明けましておめでとうございます。本年も地域連携に努め、地域医療の推進と貢献に努めたいと思います。次回には新しい施設の紹介をしたいと思います。
(地域連携便り編集委員：野口・今村・山下・小川)